

献呈の辞

キリスト教と文化研究センター長 山 本 俊 正

畠山保男教授は、2017年3月31日をもって関西学院大学を定年によりご退職されることとなりました。畠山先生は、2000年聖和大学人文学部キリスト教学科教授に就任され、その後、2009年、学校法人関西学院との法人合併により、学長直属教授として関西学院大学キリスト教と文化研究センター（RCC）の所属となりました。爾来17年の間、聖和大学および神学部、国際学部、RCC等での研究、教育、後進の育成に多大な貢献をされてこられました。

畠山先生は、1976年3月に関西外国語大学英米語学科を卒業後、同志社大学神学研究科修士課程、同博士課程へと進学されました。その後、1979年スイス・バーゼル大学に入学、1985年に同大学に学位論文を提出、1986年にスイス・バーゼル大学より神学博士の学位を授与されています。畠山先生は1987年より同志社大学神学部講師、1988年より明治学院大学一般教育学部、専任講師、助教授を経て、1992年4月より明治学院大学キリスト教研究所主任に就任されました。また、1997年より一年間、ドイツ・ヴッパータール神学大学にて研究員を歴任されています。先生は教会との関係において、1988年に日本基督教団より按手礼を受け、大阪教区にて正教師となっています。それ以前の1979年には日本基督教団西成教会の担任教師、1983年には同教団寝屋川教会の担任教師を歴任され、牧会活動をされています。

畠山先生のご専門は、キリスト教神学、とりわけ組織神学に含まれる教義学、近・現代神学、エキュメニカル神学、キリスト教倫理学と幅広く、特にショアー以後のキリスト教神学としてユダヤ教・キリスト教・イスラームのアブラハム

的宗教間対話に関連した論文を多数発表されています。またドイツ語での博士学位論文は最初の著書にもなった『歴史の主に従う』（新教出版）の原本となっており、チェコの神学者、ヨセフ・ルクル・フロマートカの生涯と神学全体に光りを当てた優れた研究書になっています。畠山先生はその他、数多くの研究論文、共著、翻訳書などを出版されました。また畠山先生は、日本基督教学会、日本バルト協会、日本組織神学学会、ボンヘッファー研究会、日本ユダヤ文化研究会（現神戸ユダヤ文化研究会）、日本ユダヤ学会、等に所属し研究発表を行うと共に、学会の発展に多大な貢献をされてこられました。

RCCでの主要な研究活動としては、2009年にRCCが刊行した『キリスト教平和と学事典』の分担執筆をされた他、2010年より共同研究プロジェクト、「ミナト神戸に宗教多元主義を探るー＜海のシルクロード＞の文化と宗教的共生」の研究員として、神戸北野町にある宗教施設を訪問するフィールドワークに意欲的に参画されました。研究成果をまとめて出版した『ミナト神戸の宗教とコミュニティ』（神戸新聞総合出版センター）で「ユダヤ人コミュニティと神戸シナゴグ」と題した章の執筆をされています。また近年の論文としては、RCCの紀要に「キリスト者とユダヤ人の関係刷新とは何の謂いか？（その一）（その二）（その三）」の三部作を紀要第12号2011年3月発行、第14号2013年3月発行、第18号2017年3月発行にそれぞれ発表されています。この数年間体調を崩され、万全ではないお体の中でのご執筆による玉稿、労作に深く敬意と感謝をいたします。畠山保男教授のご退職にあたり、RCCならびに聖和大学、関西学院大学での教育、研究、行政に対するご貢献に衷心より感謝の意を表し、ここに『関西学院大学キリスト教と文化研究』の記念号を刊行し献呈できますことは大きな喜びであります。最後になりましたが、先生のご健康のご回復をお祈りすると共に、この記念号の刊行に際してご執筆いただいた先生方、ならびに編集に携わっていただいた先生方、吉岡記念館事務室職員の方々に厚く御礼を申し上げます。

2017年2月